

## 1 研究主題(昭和57年・第7年次)

国語の基礎学力の向上をはかるにはどのようにしたらよいか  
読む力を伸ばすための具体的方法を研究する

## 2 主題の設定と研究の経緯

昭和51年3月をもって、県指定の情操教育の研究が終了したのを機会に、「子どもに力のつく研究」をやろうということになりました。そして全職員で全校児童の実態について話し合った結果、基礎学力をしっかりと身につけさせてやろうということに落ち着きました。この基礎学力を「読み」「書き」「珠算」と考え、その中でもすべての教科の基礎となる読み書きの能力の向上をめざそうという共通理解ができあがりました。

どれほどささやかであっても、常に目の前の子どもが一步でも半歩でも向上することに結びついた研究でありたいと願って主題を設定し、以来、全校態勢で研究に取り組んでから6年が経過しました。

第一年次(昭和51年)は基礎調査を実施し、職員研修を通して、朗読・漢字指導についての共通理解をはかることに力を入れました。第二年次は二学期から全面的に「石井式漢字教育」を取り入れ、全校いっせいに教科書の「漢字貼り」を始め、三学期には石井勲先生に初めて直接指導を受けました。さらに第三年次は全学年で「漢字貼り」を続けるとともに、低学年における「お話による漢字指導」、中・高学年における「解字指導」を試み、予期していた以上の成果を得ました。そして二学期末には再び石井先生をお迎えして、さらに具体的な指導を受けるまでになりました。第四年次は「漢字貼り」「漢字朝礼」と

もに、石井式漢字指導法の徹底を日常的に努め、夏休みに石井先生をお迎えして、三日間にわたって解字の指導を受け、十二月には全学年を対象に「漢字の読みの調査」を実施しました。第五年次は「ことばの指導」というテーマをかかげ、石井式漢字指導の研究深化に努め、とくに具体的な授業の場における「ことばの指導」のために、低・高学年各一学級ずつによる焦点授業を実施しました。また、全校朝礼時に全校朗読を取り入れました。夏休みには、石井先生に「石井方式の原理」の指導を受けました。そして、第六年次(昭和56年)は石井式漢字指導法の一層の研究深化と漢字の生活化をはかることに努め、前年に引き続いて、抽出学級による焦点授業を実施し、より具体的な「ことばの指導」を模索してきました。そして夏には、またも石井先生に指導を受け、今日では慣例となっております。

さて国語教育には生活全般にまたがる国語教育と、国語科の中で行われる国語教育との両面があると考えられます。ややもすると国語科の中だけで行おうとする傾向があるように思われますが、過去六か年間に積み重ねてきた出東小学校の研究は、その両面から国語の力を伸ばそうとするものでした。

今年は、この六か年の実践の成果をふまえて、石井式漢字指導法の一層の研究深化と漢字の生活化をはかるとともに、幅広い国語教育(ことばを大切にした教育)の中で培われた力をベースにして、国語の基礎学力、その中でも最も重要な「読む力」の向上をめざして具体的な指導法の研究を全校態勢ですすめてきました。

## 3 主題達成のための基本的姿勢

常に初心を忘れず、机上の空論であったり、書物からの受け売り、

借り物であったり、あるいは「研究のための研究」にならないよう自戒したいものです。そして、いつも「子どもに直接はねかえる研究」をめざし、たえず全職員の共通理解をはかり、各人の創意工夫による実践を大切にしていきたいものです。

また、つねに子どもを見つめながら確信をもって実践に取り組み、いつでも、どこでも、誰にでもできる、長続きする研究をめざしていきたいと思います。

#### 4 実践のあらまし

##### (1) 石井式漢字指導の研究深化と日常化

###### (ア) 学年に応じた「漢字貼り」の実践

- ・ できるだけ多くの漢字に目を触れさせるために、主として読む教材で漢字貼りを実施しました。
- ・ 一年生は昨年の反省をもとに、漢字の数を減らして、入学早々から実施しました。

###### (イ) 学年朝礼における漢字指導の実践(後述「漢字朝礼の手引き」参照)

- ・ 低学年では「お話による漢字指導」(お話朝礼)、中・高学年では「解字による漢字指導」(解字朝礼)を中心にして、学年ごとに毎週一回ずつ実施しました。朝礼の内容については、子どもたちの反応を見ながら、弾力的に実施することにしました。
- ・ 本年度は、昨年度からの課題であった「漢字朝礼の手引き」を作成しました。また、初めて「お話朝礼」を経験する一年生と同じく、初めて「解字朝礼」を体験する三年生の第一回目の

朝礼を公開して新任教員研修会をもつなど、誰でも気軽に取り組めるよう配慮しました。

###### (ウ) 漢字を積極的に使用

- ・ できるだけ多くの漢字に目を触れさせるために、全教科の中で積極的に漢字を使用するようにしました。(プリント・板書など)

###### (エ) 児童の目に漢字を触れさせるための環境整備

- ・ 目に触れる機会の多い漢字は教わらなくても自然にわかっていきます。また教わることによって知る漢字も、子どもたちに定着するのに一定期間が必要であります。結局、漢字を覚えるのに、最も大切なことは、反復と興味であって、そのための環境づくりをしました。(掲示黒板・掲示物など)

##### (2) 読み取る力を伸ばすための授業研究

読む力を伸ばすためにはどのようにしたらよいかを、学年の発達段階に合わせて、各学年ごとに主題に迫る具体的な方法を研究し、より効率的な指導法をさぐることにしました。(公開授業を催す)

##### (3) 美しい言葉の響きを大切にさせるために

音読、朗読に力を入れるとともに、古今東西の詩の暗誦を奨励しました。国語部を中心にして毎月の暗誦詩を決め、「こころのうた」として全校朝礼時に全校朗誦を続けました。また児童会主催の百人一首大会が開かれ、全校参加で大変盛不上りました。

##### (4) 読書指導の充実のために

- ・ 読書指導の時間を確保します。
- ・ 児童図書を充実(今年は約800冊購入)し、読書環境の整備をすすめます。

- ・ 図書館利用の指導をします。
- (5) 全職員の共通理解をはがるための職員研修
- ・ 毎月一回、研究職員会を実施しました。
  - ・ 「朗読・漢字指導の手引き」「漢字朝礼の手引き」を利用して、転入してきた職員の研修の時間をもちました。
  - ・ 漢字指導者講習会に全職員が参加し、石井式漢字指導法と解字等について、石井勲先生から直接指導を受け、また各種研究会にも積極的に参加しました。

## 5 今年度の反省

- ・ 漢字貼りを読みの中に位置づけているが、漢字貼りの時期、貼る量など子どもの実態に合わせて考慮する必要があります。また漢字貼りに対する子どもたちの意識も様々なので、時には漢字貼りの意味について話してやることも必要です。
- ・ お話朝礼は子どもたちも非常に喜び、この朝礼を通してたくさん漢字を覚えました。歴史ものなども、題材に加えて変化をもたせると発展的な読書につながることもありました。
- ・ 三年生以上の解字朝礼では、教師側からの一方通行になりがちですが、子どもたちが活躍する場を作ると意欲的に取り組むようになりました。また提出漢字や解字指導で悩むこともあります。常によりよい方法を模索しながら根気よく続けることが大切であることを痛感しました。
- ・ 全員が公開授業をしたことによって、皆が同じ気持ちでこの実践研究に取り組むことができよかったです。そうした中で子どもたちの読み取りの姿勢も変わって、拾い読みもな

くなり、文章に即して読み取る力がついてきました。また教師自身の力不足を感じて、さらに研修を重ねる必要を痛感しました。

今年度は、数年来積み上げてきた基盤の上に、新たに「読む力」に焦点をあてて実践を重ねてきました。子どもたちは意欲をもって取り組むようになり、読む力、書く力も確実に伸びて、大きな成果が上がってきています。このような今年の実績と反省をふまえて、来年は石井式漢字指導の一層の推進をはかるとともに、さらに「確実に読み取る力」を伸ばすための方法をもとめて、全職員が力を合わせて研究を進めていくつもりです。

## 漢字朝礼の手引き

### 「お話朝礼」について(一～二年生)

#### 1 ねらい

直観力に優れている低学年の特質を生かし、お話を楽しく聞かせながら、お話に出てくる漢字を板書することによって、漢字に目を触れさせる機会を多くし、漢字に興味をもたせることを意図しています。

#### 2 方法

教師がお話をしながら、お話に出てくる言葉を漢字で板書します。そして同じ漢字が出てくるたびに、それを指差してお話が終わったところで、板書した漢字を子どもに読ませるという方法で進めます。板書する漢字は、そのお話の中の大切な言葉や繰返し出てくる言葉を選び、十字前後が適当のようです。また「お話朝礼」の時間は十五分

くらいを一応の目安としています。

### 「解字朝礼」について(三～六年生)

#### 1 ねらい

基本となる部首を含んだ漢字について解字をすることにより、漢字のもつ意味や使い方をより深く理解させ、言葉というものに興味や関心をもたせることをねらいとしています。これは漢字習得にきわめて有効であると考え、中・高学年で実施しています。低学年に比べ、この学年になると、直観力が落ちるかわりに論理的な思考力が発達してくることから、「お話朝礼」にかわるものとして「解字朝礼」を行っています。

#### 2 留意点

解字指導で学習した漢字は、もちろん子どもたち全員がそのすべてを理解してくれなくても構いません。指導したことの一つでも二つでも心に留めてくれれば幸いであるというくらいに考え、そして漢字学習はおもしろく、楽しいものだと感じてくれるような朝礼を心掛けています。

以下に例をあげる学年別の部首、漢字はあくまでも目安であり、これにしばられる必要はありません。大切なことは、反復することを常に心掛け、子どもの反応や理解などを考慮して、指導する者の創意工夫による解字指導を行うことです。

#### 3 学年別「解字朝礼」についての考え方の一例

三年生 解字指導の入門期であるので、最も基本となる部首

(手・足・人シリーズ)を理解させることが中心となる。

四年生 三年生で指導した部首の定着とそれ以外の部首を指導し、この学年で一通りの部首の指導を終えたい。

五年生 三・四年生で学んだ部首を組合わせてできた漢字の解字を行い、深い意味をつかませる。

六年生 やや複雑な漢字の解字や同音異義、同訓異義の解字や解説を行う。

#### 4 取上げる部首・漢字の例

三年生 手シリーズ <ナ・又・扌・扌・冫・ヨ・冫・支・寸・廴>  
<例>

右 (ナと口の指導)	左 (工の指導)	有 (肉月の指導)	前 (舟月の指導) 期 (月偏の指導)
---------------	-------------	--------------	------------------------------

友 (ナと又の指導)	取 (耳と又の指導)	反 (广の指導)	返 (辶の指導) 坂(土偏の指導) 板(木偏の指導) 飲(食偏の指導) 投(扌偏・扌の指導)
---------------	---------------	-------------	---

足シリーズ <止・夂・止・止・女・辶・辶・辶・行>  
<例>

止 正 歩 足 走 降(冫の指導)  
 (足の裏の形)

発 脚 郡(冫と⇒の指導)  
 登 違(辵の指導)

人シリーズ <匕・歹・イ・人・儿・頁・ム・自・欠・口・心・  
 卜・月>

<例>

比 北 花(艹・イの指導) 見(人脚の指導)  
 (匕の指導) 死 列・別  
 (歹偏の指導)(リ)の指導)

背 目・鼻(顔の部首指導) 公・面  
 丁・釘(金偏の指導)  
 七・切(刀の指導)

「手」「足」「人」シリーズの関連字

- ・ 手 右・左・有・友・取・双・投・反・受・授・手・菜・採・筆・争・妻・急・掃・教・牧・敗・共・具・供・開・寸・尋.....
- ・ 足 止・正・足・走・発・登・降・違・衛.....
- ・ 人 比・北・化・花・死・見・兄・児・面・首・私・息・自・鼻・公・吾・飯.....

四年生

- ・ 冫 冷・氷(冫水)・冬・寒・洲(州)・波・深.....
- ・ 火 黒・赤・燃・照・燈・災.....
- ・ 雨 雨・雪・雲・電・雷.....

- ・ 門 戸・開・閉・間・問・聞.....
- ・ 刀 切・初・分・刃・前・利・判・列・別.....
- ・ 冫(邑) 冫(阜) 郡・郷・都・部・防・降・険・陸・階・陽.....
- ・ 衣・示
- ・ 广・尸・厂
- ・ 隹・宀・穴・月・月(肉)・月・口・亡・戈・弋.....

五年生

- 禁(木示)・判(半リ)政・(正ノ又)・版(木厂又)・授(扌冫又)・  
 精(米生月)・比(上匕)・未・未・果・群・郡・非・悲・不・無・経・径・  
 軽・妻・婦・掃・衆・集・品・検・永・脈・派・券・輪・愉・衛・観・勸・  
 雑・往・注・駐・柱・住・祖・組・粗・護・獲・穫・保・育・流・子・似・  
 以・解・紀・記・表・裏・陰・陽

六年生

- 聴・聞・看・観・見・視・診・覧・合・会・遭・鳴・啼・泣・紙・誌・径・  
 途・道・路・汐・潮・洲・州・島・嶋・河原・川原・影・陰・暑・熱・絶  
 対・絶体・住・棲・主・首・起・建・立・字典・辞典・事典・最後・最  
 期・食料・食糧・珠・玉・球・弾・作・造・創・解・融・溶・跳・飛・治・  
 直・殴・撲・睡・眠・延・伸・早・速・分・別・昇・上・登・帰・返・環・  
 狩・獵